

2026年1月度 高島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高 (前年比 単位: %)

大 阪 店	+8.2	大 宮 店	+12.7
堺 店	△44.4	柏 店	※2 +2.4
京 都 店	※1 +1.6	E C 店	+16.3
泉 北 店	+2.4	(株) 高 島 屋 各 店 計	+7.0
日 本 橋 店	+15.8	(株) 高 島 屋 各 店 既 存 店 計	※3 +7.7
横 浜 店	+8.5	岡 山 高 島 屋	△1.2
新 宿 店	+2.0	高 崎 高 島 屋	+1.7
玉 川 店	+16.0	国 内 百 貨 店 計	+6.7
		国 内 百 貨 店 既 存 店 計	※3 +7.4

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準(総額売上高)で開示しております。

※1 京都店は「洛西店」の売上高を含みます。

※2 「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3 本年1月7日に営業を終了した「堺店」の本年・前年実績を控除しています。

■ 概況

○前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高+6.7%(※+7.4%)、免税売上高△18.9%、免税を除いた店頭売上高+11.2%(※+12.0%)となりました。

○国内顧客は、気温の低下にともないコートなどの冬物衣料(正価品)に動きがみられたことや、食料品が堅調に推移したことで前年実績を上回りました。

インバウンド顧客については、中国による「訪日自粛要請」の影響等もあり、前年実績を下回りました。

○店舗別売上高は、大阪店、京都店、泉北店、日本橋店、横浜店、新宿店、玉川店、大宮店、柏店、EC店、高崎店が前年実績を上回りました。

○商品別売上高(当社分類)は、紳士服、婦人雑貨、特選衣料雑貨、宝飾品、子供情報ホビー、スポーツ、食料品、食堂、サービスが前年実績を上回りました。